

**令和7(2025)年度
大阪大学大学院人文学研究科
博士前期課程
外国学専攻**

学生募集要項

目次

はじめに

大阪大学大学院人文学研究科の概要	1
Ⅰ. 外国学専攻アドミッション・ポリシー	3
Ⅱ. 専攻、コース及び募集人員	4
Ⅲ. 出願資格	4
Ⅳ. 出願資格事前審査	8
Ⅴ. 出願手続等	9
Ⅵ. 入学者選抜方法	15
Ⅶ. 英語外部検定試験の利用について	16
Ⅷ. 合格者の発表	17
Ⅸ. 入学手続	17
X. 入学料及び授業料	17
XI. 個人情報の取扱い	18
XII. 入学試験における個人成績の開示について	18
XIII. その他	19
XIV. 受験上の注意	19
外国学専攻教員研究分野一覧（予定）	21
案内図・問い合わせ先	25

はじめに

令大阪大学大学院人文学研究科は、5つの専攻（人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学）で構成されています。

人文学研究科の令和7（2025）年4月入学者を対象とする学生募集は、課程・専攻（日本学専攻はコース）ごとに行うため、学生募集要項、入試日程及び選抜方法等がそれぞれ異なりますので注意してください。

この学生募集要項は、人文学研究科**博士前期課程外国学専攻**に出願するための学生募集要項です。

大阪大学大学院人文学研究科の概要

大阪大学大学院人文学研究科は、思想・歴史・文学・言語文化・社会・芸術など多領域にわたり超横断的な学びの場を提供し、国際的な相互理解を推進する研究者・高度専門職業人を育成します。

■ 人文学研究科のミッション

人文学研究科では、安定した教育プログラムを提供する5専攻群（人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学）とともに、5専攻を横断して研究科全体の研究・教育体制を俯瞰し、共通科目の提供や専攻を超えた交流等を推進する組織として「人文学林」を新たに設置しました。

「人文学林」では、3つの学問分野と4つの地理的エリアを組み合わせ、12に区分された「学術マトリックス」を設けており、教員はその12の区分に配置されています。学生は所属専攻の垣根を超えてそれぞれの興味関心に従ってその区分を選択することで、社会学連携活動を実施したり研究グループを立ち上げたりするなど、専攻を超えた交流や研究の振興、さらには新たな学問分野の創出が可能となります。

■ 5専攻紹介

人文学専攻 「人間とは何か」を探求する人文学 Humanities の継承と発展

次の4コースにより、「人間性」を探求するとともに、現代の諸課題にも取り組みます。①哲学コース（哲学哲学史、科学技術社会論、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学）、②グローバルヒストリー・地理学コース（東洋史学、西洋史学、人文地理学）、③文学コース（テキスト表現論 [英米文学、ドイツ文学、フランス文学、中国文学]、テキスト環境論）、④比較・対照言語学コース

言語文化学専攻 今日的な課題に幅広い観点から取り組む

3分野6講座（Ⅰ：超領域文化論講座、表象文化論講座、Ⅱ：コミュニケーション論講座、第二言語教育学講座、Ⅲ：理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座、言語認知科学講座）が連携しつつ、伝統的なディシプリンと新たな研究領域や研究方法論を融合し、言語と文化に関する高度な教養や情報活用能力を修得することで、今日の多文化・多言語社会における国家・民族・文化間の諸問題等に取り組みます。

外国学専攻 24の言語とその地域について多角的・徹底的に学べる

24の言語とそれを基底とする文化一般について、高度な言語運用能力をもとに理論と実践の両面にわたり総合的に教授・研究する「外国学研究」を主眼とし、人文社会科学諸分野や学際的アプローチから世界の言語と文化を研究します。①地域文化研究コース（アジア・アフリカ言語文化コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース）、②高度専門職業人コース（英語教員リカレント・コース、中国語教員リカレント・コース）

日本学専攻 基盤的研究と応用的展開の双方をカバーする日本最大規模の日本学専攻

基盤日本学コースと応用日本学コースの2コースを擁する日本学専攻は、日本の言語・文化・社会・歴史・文学などを厳密に学問的な方法に基づいて深く探究するとともに、その専門的知見に基づいて日本の抱える今日の課題に果敢に取り組むことのできる人材を育成します。さらに、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎としてグローバルに活躍できる実践力・応用力を養います。

芸術学専攻 基礎と社会的実践の両方に立脚、国立総合大学最大の芸術学の専攻

4コース（アート・メディア論コース、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース）から成る芸術学専攻では、他の何ものによっても代替不可能な営みである芸術を、全国的にも類を見ない規模で捉え、専門的・先端的且つ学際的な厚みと多様性を備えた研究・教育活動を行います。これにより、現代社会の諸システムの制約や限界を超え出る可能性・構想力を持った人材を育成します。

■各専攻の入学定員と学位プログラム

専攻	課程(入学定員)	プログラム	取得できる学位
人文学専攻	博士前期課程(47人) 博士後期課程(14人)	人文学プログラム	修士(文学) 博士(文学)
言語文化学専攻	博士前期課程(32人) 博士後期課程(15人)	言語文化学プログラム	修士(言語文化学) 博士(言語文化学)
外国学専攻	博士前期課程(25人) 博士後期課程(11人)	外国学プログラム	修士(言語文化学) 博士(言語文化学)
日本学専攻	博士前期課程(40人) 博士後期課程(18人)	基盤日本学プログラム	修士(文学) 博士(文学)
		応用日本学プログラム	修士(日本語・日本文化) 博士(日本語・日本文化)
芸術学専攻	博士前期課程(17人) 博士後期課程(7人)	芸術学プログラム	修士(文学) 博士(文学)

* 教授会の議を経て総長が適当と認めたときは、「修士／博士(学術)」を授与する場合があります。

I 外国学専攻 アドミッション・ポリシー

大阪大学および人文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「外国学」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、次のとおり、アドミッション・ポリシーを定め、入学者を受け入れます。

【求める人材像】

学位プログラム「外国学」は、各コースで次のような人材を求めています。

- 地域文化研究コース（アジア・アフリカ言語文化コースおよびヨーロッパ・アメリカ言語文化コース）では、特定地域の言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）の専門的知識を身につけ、その言語あるいは言語圏の文化と社会に関する先端的研究、具体的には個別言語を対象にした言語学（語史や音韻、形態、統語、語用等の分析など）、各言語圏の文学（小説・演劇・詩等の文化表象の分析など）、各言語圏の歴史、社会、政治経済（社会の動態と構造の分析など）を扱う学問の先端的研究を実践する研究者をめざす学生を求めています。また同時に、世界の諸地域の言語や文化に関する高度の教養を身につけ、国際舞台で活躍しうるグローバル人材となることをめざす学生を求めています。
- 高度専門職業人コース（英語教員リカレント・コースおよび中国語教員リカレント・コース）では、中等教育の現場における英語および中国語の教育に役立てるため、それぞれの言語の高度な専門的知識とその言語圏の文化と社会に関する高度な教養を身につけようと望む現役教員を学生として求めています。

【入学者選抜の基本方針】

学位プログラム「外国学」は、専攻する外国語の高度な言語運用能力を持つ多様な学生を募るための適切な選抜方式（原則として筆記試験及び口述試験による）を採用しています。また、博士前期課程に入学するためには、上記の特定地域の言語とその言語圏の文化と社会について、本学外国語学部の卒業生と同等の学力を有することが求められます。

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

上記のような学生を募るため、夏期と冬期の年2回に分けて、次のような選抜試験を行います。

- 研究活動に資する言語運用能力の高さを確かめるための「言語」の試験（社会人・外国人留学生を除く）
- 研究活動の基盤となる専門知識を確かめるための「専門科目」の試験（高度専門職業人コースを除く）
- 専門分野の知識や研究計画等を確かめるための口述試験

※ 詳しくは、人文学研究科外国学専攻ウェブサイト（入試情報）の「教育目標及び3ポリシー」をご覧ください。（https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/admission/a_policy.html）

II 専攻、コース及び募集人員

博士前期課程外国学専攻

コース		募集人員
	専攻言語	
アジア・アフリカ言語文化コース	中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語	合計25名 夏期試験 18名程度 冬期試験 7名程度
ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース	ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語	
中国語教員リカレント・コース（夏期試験のみ募集）		
英語教員リカレント・コース		

- 「アジア・アフリカ言語文化コース」及び「ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース」は、出願資格【一般】【外国人留学生】【社会人】に区分して試験を実施します。詳細は「III 出願資格」を確認してください。以降、本募集要項ではコース名は省略し、【一般】【外国人留学生】【社会人】と記載します。
- 出願資格【外国人留学生】、【社会人】、「中国語教員リカレント・コース」及び「英語教員リカレント・コース」については、この募集要項に基づいて学力検査の一部を免除した上で入学試験を実施しますので注意してください。

III 出願資格

「アジア・アフリカ言語文化コース」

「ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース」

1 【一般】次の(1)から(12)のいずれかに該当する者

- 大学又は専門職大学を卒業した者及び令和7（2025）年3月31日までに卒業見込みの者
- 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和7（2025）年3月31日までに授与される見込みの者
- 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
- 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
- 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
- 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7（2025）年3月31日までに授与される見込みの者
- 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）

- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (10) 大学又は専門職大学に3年以上在学した者であって、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの(当該単位の修得の状況及び法科大学院が当該法科大学院において必要とされる法学の基礎的な学識を有するかどうかを判定するために実施する試験の結果に基づき、これと同等以上の能力及び資質を有すると認められたものを含む。)
- (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの
- (12) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7(2025)年3月31日までに22歳に達するもの
- ※ (9)(10)(11)又は(12)に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「V 出願資格事前審査」を参照してください。

2 【社会人】(1)の①又は②に該当し、かつ、(2)の①から⑨までのいずれかに該当する者

(1) 職歴等

- ① 入学時に有職者(出願時に就職内定者を含む。)である者
- ② 令和7(2025)年3月31日において25歳以上の者

(2) 学歴等

- ① 大学又は専門職大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって⑤の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号参照)
- ⑨ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7(2025)年3月31日までに22歳に達するもの

※ ⑨に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「IV 出願資格事前審査」を参照してください。

3 【外国人留学生】入学時に在留資格「留学」を有し（入学時に在留資格を「留学」に変更する者を含む。）、次の(1)から(12)のいずれかに該当する者

- (1) 大学又は専門職大学を卒業した者及び令和7（2025）年3月31日までに卒業見込みの者
 - (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和7（2025）年3月31日までに授与される見込みの者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
 - (5) 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7（2025）年3月31日までに授与される見込みの者
 - (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7（2025）年3月31日までに修了見込みの者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
 - (10) 大学又は専門職大学に3年以上在学した者であって、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの（当該単位の修得の状況及び法科大学院が当該法科大学院において必要とされる法学の基礎的な学識を有するかどうかを判定するために実施する試験の結果に基づき、これと同等以上の能力及び資質を有すると認められたものを含む。）
 - (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの
 - (12) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同程度の学力があると認められた者で、令和7（2025）年3月31日までに22歳に達するもの
- ※(9)(10)(11)又は(12)に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「Ⅳ 出願資格事前審査」を参照してください。

「中国語教員リカレント・コース」

(1)の①から④までのいずれかに該当し、かつ、(2)の①から③までのいずれにも該当する者

(1) 学歴等

- ① 日本の大学又は専門職大学を卒業した者

- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
 - ④ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7（2025）年3月31日までに22歳に達するもの
- ※ ④に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「IV 出願資格事前審査」を参照してください。

(2) 教育職員免許状及び職歴等

- ① 出願時に、中国語に関する、中学校教諭一種免許状若しくは高等学校教諭一種免許状又は臨時免許状を有している者で、かつ、学校教育法第1条に規定する学校又は中等教育段階に相当する各種学校（以下「学校等」という。）の教員（臨時教員を含む。）の職にある者
- ② 学校等において3年以上の中国語教育経験（臨時教員を含む。）を有する者及び令和7（2025）年3月31日までにその見込みのある者
- ③ 原則として、本研究科在学中に教育実践ができる場を持っている者

「英語教員リカレント・コース」

(1)の①から④までのいずれかに該当し、かつ、(2)の①から③までのいずれにも該当する者

(1) 学歴等

- ① 日本の大学又は専門職大学を卒業した者
 - ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - ③ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
 - ④ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7（2025）年3月31日までに22歳に達するもの
- ※ ④に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「IV 出願資格事前審査」を参照してください。

(2) 教育職員免許状及び職歴等

- ① 出願時に、中学校教諭一種免許状(英語)又は高等学校教諭一種免許状(英語)を有している者で、かつ、学校教育法第1条に規定する中学校、高等学校又は、中等教育学校（以下「中学校等」という。）の英語の教員（臨時教員を含む。）の職にある者
- ② 中学校等において3年以上の英語教育経験（臨時教員を含む。）を有する者及び令和7（2025）年3月31日までにその見込みのある者
- ③ 原則として、本研究科在学中に教育実践ができる場を持っている者

(注) 博士前期課程外国学専攻「英語教員リカレント・コース」では、英語の高い運用能力を前提とした英語学、英米文学、英米文化、英米社会などについて本格的な学問研究を展開しています。（英語教育学、英語教授法については、人文学研究科外国学専攻では専門講座はなく、言語文化学専攻に専門講座があります。ただし、言語文化学専攻にはリカレント・コースはありません。）

「英語教員リカレント・コース」の概要等については、ウェブサイトをご覧ください。

(<https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/recurrent/recurrentinfo.html>)

IV 出願資格事前審査

「Ⅲ 出願資格」の1【一般】の(9)(10)(11)(12)、2【社会人】の(2)の⑨、3【外国人留学生】の(9)(10)(11)又は(12)、「中国語教員リカレント・コース」の(1)の④、又は「英語教員リカレント・コース」の(1)の④に掲げる出願資格により出願しようとする者については、出願前に個別の出願資格事前審査を行いますので、下記のとおり事前審査に必要な書類を巻末の《問い合わせ先》に提出してください。

[事前審査提出書類]

- (1) 入学試験出願資格認定申請書（所定用紙）
- (2) 研究業績調書（所定用紙）
- (3) 論文（(2)の研究業績調書のうちから主要論文1点を3部提出してください。なお、日本語又は英語以外の論文の場合は、日本語訳文（志願者作成可）を3部添付してください。）
- (4) 最終学校の卒業証明書*又は修了証明書*
- (5) 最終学校の成績証明書*

* 写しでも可。ただし、出願資格認定後の出願に際しては、原本を提出してください。日本語又は英語以外の証明書の場合は、日本語訳文（志願者作成可）を添付してください。

出願資格事前審査書類提出期限 夏期試験：令和6（2024）年5月31日（金）

冬期試験：令和6（2024）年10月11日（金）

※封筒の表に「出願資格事前審査」と朱書きしてください。

出願資格事前審査は提出された書類により行います。審査の結果は、本人あてに郵送で通知します。（電話による問い合わせには応じません。）

出願資格事前審査の結果、出願を認められた者は、次の「V 出願手続等」により出願することができます。

V 出願手続等

1 出願書類等

出願書類等	必要書類					摘 要
	一 般	社 会 人	外 国 人 留 学 生	中 国 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	英 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	
入学願書 (所定の用紙)	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 写真は、上半身正面向無帽で、出願前 3 か月以内に撮影したものを貼付してください。 (写真の大きさ縦 4.5 c m × 横 3.5 c m 1 枚)
成績証明書 及び 卒業(見込)証明書	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 出身大学の学長又は学部長が作成し、厳封したもの(写し不可) 偽造防止用紙による証明書の場合は、特に厳封を要しません。 日本語又は英語以外の証明書の場合は、日本語訳文(志願者作成可)を添付してください。 <u>海外の大学等の卒業(見込)者で、卒業(見込)証明書内に学位名が記載されていない場合は、併せて学位授与(見込)証明書の提出が必要です。</u> 婚姻等により証明書に記載された氏名と現在の氏名が相違している場合は、改名したことを証明する公的書類を添付してください。
修学歴調書 (所定の用紙) ※該当する者のみ	▲	▲	▲	▲	▲	<ul style="list-style-type: none"> 外国での修学歴のある者は、必ず提出してください。
入学試験論文	●					<ul style="list-style-type: none"> V の 4 の「入学試験論文について」により作成してください。 A4 判用紙を使用し、所定の表紙を付して提出してください。なお、表紙には論文題目・志望コース・専攻言語・氏名を記入してください。また、使用言語を明示してください。 <u>ページ番号を右下に付してください。</u>
IELTS(Academic Module)、 TOEFL-iBT Test、 又は TOEFL-ITP Tests の成績票 (いずれか1つのみ) ※該当する者のみ ▲	▲				●	<ul style="list-style-type: none"> <u>【一般】志願者で、試験科目「言語」で「英語」を選択する者、及び「英語教員リカレント・コース」志願者のみ</u>提出してください。 詳細は、「<u>Ⅶ 英語外部検定試験の利用について</u>」を必ず確認してください。

出願書類等	必要書類					摘 要
	一 般	社 会 人	外 国 人 留 学 生	中 国 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	英 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	
課題論文		●				<ul style="list-style-type: none"> 志望する専攻に関する「語学」・「文学」・「文化」・「社会」の分野から、一つのテーマを選んで日本語で論述してください。 論文は、A4判用紙を使用し、8,000字程度にまとめ、所定の表紙を付して提出してください。ただし、<u>ヨーロッパ・アメリカ言語文化コースの志望者</u>で英語を専攻言語にする者は、必ず英文でA4判用紙（12ポイント・25行で）6枚程度にまとめてください。 <u>ページ番号を右下に付してください。</u>
			●			<ul style="list-style-type: none"> 志望する専攻に関する「語学」・「文学」・「文化」・「社会」の分野から、一つのテーマを選んで日本語又は志望する専攻言語で論述してください。 論文は、A4判用紙を使用し、日本語で作成する場合は8,000字程度、志望する専攻言語で作成する場合はダブルスペースで7枚程度にまとめ、所定の表紙を付して提出してください。ただし、<u>ヨーロッパ・アメリカ言語文化コースの志望者</u>で英語を専攻言語にする者は、必ず英文でA4判用紙（12ポイント・25行で）6枚程度にまとめてください。 <u>ページ番号を右下に付してください。</u>
志望理由書				●	●	<ul style="list-style-type: none"> 各リカレント・コースで希望する専攻分野（「言語」・「文学」・「文化」・「社会」のいずれか1つ）を選択し、本研究科での専攻分野研究を志望する理由を、「中国語教員リカレント・コース」志望者は中国語で、「英語教員リカレント・コース」志望者は英語で、A4判用紙6枚程度にまとめ、所定の表紙を付して提出してください。 <u>ページ番号を右下に付してください。</u>
志望理由・研究計画書 （所定の用紙）		●	●			<ul style="list-style-type: none"> 日本語又は専攻言語で作成してください。 志望理由及び入学後の研究計画を記入してください。
研究計画書 （所定の用紙）				●	●	<ul style="list-style-type: none"> 入学後の研究計画を記入してください。
職歴等調書 （所定の用紙）		●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 過去及び現在においてたずさわっている職務内容、研究経歴又は卒業論文等の概要等について記入してください。

出願書類等	必要書類					摘 要
	一 般	社 会 人	外 国 人 留 学 生	中 国 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	英 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	
有職証明書 ※該当する者のみ		▲				<ul style="list-style-type: none"> 年齢 25 歳（令和 7（2025）年 3 月 31 日現在）未満の者で、官公庁・会社等に在職している者は在職の事実を証明する書類（写し不可）を、また、就職が内定している者は内定通知等の書類（写しでも可）を提出してください。
在職証明書				●	●	<ul style="list-style-type: none"> 中国語教員リカレント・コース 勤務先学校長が作成したもの（様式は任意）で、現在「Ⅲ 出願資格」の 4 の(2)の①に定める学校等の中国語の教員の職にあること、及び学校等における 3 年以上の中国語教育経験を確認することができるもの（写し不可） 英語教員リカレント・コース 勤務先学校長が作成したもの（様式は任意）で、現在「Ⅲ 出願資格」の 5 の(2)の①に定める中学校等の英語の教員の職にあること、及び中学校等における 3 年以上の英語教育経験を確認することができるもの（写し不可）
検 定 料 (30,000 円)	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 検定料納入システムにより納入してください。詳細については別紙「検定料納入システムによる検定料納入方法について」をご確認ください。 (https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/admission/a_ls_info.html) 納入完了後、検定料収納証明書(PDF ファイル)をダウンロードし、A4 サイズで印刷のうえほかの出願書類とともに提出してください。 手数料は志願者の負担とします。 納入期間は以下の通りです。 夏期 2024 年 5 月 27 日（月）から 6 月 14 日（金） 冬期 2024 年 11 月 18 日（月）から 11 月 29 日（金） ※最終日の 17 時まで。 (注) 国費外国人留学生として入学する者については、検定料は不要です。<u>ただし、国費外国人留学生であることを証明できる書類を提出してください。</u>（本学大学院言語文化研究科言語社会専攻、日本語・日本文化専攻、並びに人文学研究科外国学専攻及び日本学専攻応用日本学コース、及び本学外国語学部^{に在籍している国費外国人留学生は提出不要です。}）
受験票・写真票・発送票 (所定の用紙)	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 太枠内に必要事項を記入してください。 写真票に入学願書と同じ写真を 1 枚貼付してください。

出願書類等	必要書類					摘 要
	一 般	社 会 人	外 国 人 留 学 生	中 国 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	英 語 教 員 リ カ レ ン ト ・ コ ー ス	
返信用封筒 (受験票送付用)	●	●	●	●	●	・長形3号(120mm×235mm)封筒に出願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、84円分の郵便切手を貼付してください。(書留による受験票発送を希望する場合は、434円分の郵便切手を貼付してください。)
住民票の写し (外国人の出願者のみ)	▲	▲	●	▲	▲	・外国人の出願者は、市区町村長発行の在留資格及び在留期間を明記した「住民票の写し(原本)」を提出してください。 ・出願者以外の世帯員については、証明不要です。 なお、外国人住民登録をしていない者は、「パスポート」の氏名、入国日及び在留資格を記載している箇所の写しを提出してください。ただし、海外在住の者は「パスポート」の顔写真のページの写しを提出してください。法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。

(注) 1 出願書類は返却しません。

2 納入された検定料は返付しません。ただし、出願書類の不備等の理由により出願書類を受理しなかった場合又は誤って納入した場合は、本人の請求に基づいて返付します。

2 出願期間

- (1) 夏期試験 令和6(2024)年6月3日(月)から6月14日(金)
- (2) 冬期試験 令和6(2024)年11月25日(月)から11月29日(金)

3 出願方法(以下のいずれかの方法で出願してください。)

(1) 【持参による場合】

- ・提出場所：大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟2階 箕面事務部学生支援係
- ・出願書類受付時間：平日9時00分～11時15分、12時15分～17時00分(時間厳守のこと)

(2) 【郵送による場合】

- ・出願書類を角形2号(240mm×332mm)封筒に入れて、封筒の表に「博士前期課程外国学専攻入学願書在中」と朱書きし、箕面事務部学生支援係に必ず出願期間内に到着(必着)するように書留により発送してください。
- ・ただし、期限後に到着したもので、夏期試験にあつては令和6(2024)年6月12日(水)以前、冬期試験にあつては令和6(2024)年11月27日(水)以前の日本国内発信局消印のあるものについては受け取りません。

4 入学試験論文について

外国学専攻【一般】

別表「入学試験論文一覧表」の各専攻言語及び、次の(注)の指示により作成してください。

- (注) 1 論文の使用言語を所定様式の表紙に明記してください。特に指定のない限り日本語とします。
- 2 パソコン(日本語ワープロソフト)を使用して作成する場合は、A4判・縦長・横書きとし、1行40字・1ページ30行で作成してください。

別表「入学試験論文一覧表」

コース	論文の内容	字数	摘要	
	専攻言語			
アジア・ アフリカ 言語文化 コース	中国語	入学後の研究計画を、研究テーマ・目的・意義・方法論等に留意して、詳細に論述しなさい。	6,000～ 8,000字	
	朝鮮語	入学後の研究テーマについて、その学問的意義を明確にしながらか論述しなさい。	8,000字程度	
	モンゴル語	モンゴルの言語・文学・文化のうち、最も関心のあるテーマについて論述しなさい。	8,000字程度	モンゴル語で作成の場合は、日本語で1,000字程度の要約を添付すること。
	インドネシア語	入学後の研究計画を、研究テーマ・目的・意義・方法論等に留意して、詳細に論述しなさい。	4,000字程度	
	フィリピン語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	4,000字程度	
	タイ語	あなたの従来の研究テーマと入学後の研究テーマについて論述しなさい。	8,000字程度	
	ベトナム語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	4,000字程度	
	ビルマ語	入学後の研究テーマについて、その学問的意義を明確にしながらか論述しなさい。	8,000字程度	
	ヒンディー語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	6,000～ 12,000字	
	ウルドゥー語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	6,000～ 12,000字	
	アラビア語	アラビア語圏の言語・文学・文化の分野で最も関心のあるテーマを選んで論述しなさい。	8,000字程度	
	ペルシア語	イランの言語・文学・文化のうち、最も関心のあるテーマについて論述し、入学後の研究計画についても述べなさい。	8,000字程度	
	トルコ語	トルコの言語・文学・文化のうち、最も関心のあるテーマを選んで論述しなさい。	6,000字程度	
	スワヒリ語	入学後の研究計画について、研究のテーマ、目的、意義、方法論に留意して記述しなさい。	4,000字程度	

ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース	ロシア語	ロシアとその周辺諸地域に関連して最も関心のあるテーマを選び論述しなさい。	8,000字程度	卒論の要約でも可
	ハンガリー語	ハンガリーの言語・文学・文化の分野で、最も関心のあるテーマを選んで論述しなさい。	8,000字程度	卒論の要約でも可
	ドイツ語	ドイツ語圏の言語・文学・文化などの分野で、入学後の研究テーマについて論述しなさい。なお、その目的・意義・方法論などに留意して記述すること。	8,000字程度	卒論の要約に研究計画を付記したのもでも可。500語程度のドイツ語による要約を添付すること。
	デンマーク語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	6,000字程度	「言語」試験を「デンマーク語」で受験しない志願者は、論文に1,000語程度のデンマーク語の要約を添付すること。
	スウェーデン語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	6,000字程度	「言語」試験を「スウェーデン語」で受験しない志願者は、論文に1,000語程度のスウェーデン語の要約を添付すること。
	英語	あなたの研究テーマについて英語もしくは日本語で論述しなさい。	英語の場合5枚程度、日本語の場合4,000～6,000字程度	英語で作成する場合はA4判用紙を使用し、12ポイント・25行で作成すること。
	フランス語	フランスの言語・文学・文化のうち、最も関心のあるテーマについて論述しなさい。	6,000～8,000字	
	イタリア語	イタリア語学・文学・文化の分野で最も関心のあるテーマについて論述しなさい。	8,000字以内	
	スペイン語	入学後の研究テーマについて論述しなさい。	8,000字以内	
	ポルトガル語	入学後の研究計画について、研究のテーマ、目的、意義、方法論に留意して論述しなさい。	8,000字程度	

VI 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（専門科目及び言語の試験）の成績、口述試験、入学試験論文、成績証明書及びその他の提出書類等の審査の結果を総合して行います。

(1) 学力検査等の日程

- ① 夏期試験 令和6（2024）年8月3日（土）
- ② 冬期試験 令和7（2025）年2月2日（日）

下記の要領により、専門科目及び言語の試験並びに口述試験を行います。

- ・【社会人】及び【外国人留学生】については、言語の試験を免除します。
- ・「中国語教員リカレント・コース」については、学力検査を免除し、口述試験のみを課します。
- ・「英語教員リカレント・コース」については、専門科目の試験は免除し、言語の試験及び口述試験を課します。

試験科目 (配点)		試験時間	摘要
学力検査 *1	専門科目 (200点) 【一般、社会人、 外国人留学生】	10:00～12:00	各自の専攻分野に応じた地域及び言語に関する問題を課します。
	言語 (100点) 【一般】、 「英語教員 リカレント・コース」	13:00～14:00	・次頁の※を参照のこと。 ・【一般】志願者で試験科目「言語」に「英語」を選択する者及び「英語教員リカレント・コース」志願者は、下記の(注)も併せて必ず確認してください。
口述試験 *2		【社会人】 【外国人留学生】 13:30～	課題論文及び志望理由・研究計画書等について、口述試験を行います。
		「中国語教員 リカレント・ コース」 13:30～ *3	志望理由書、研究計画書及び中学校・高等学校の中国語教育の課題と改善点等について、口述試験（必要に応じ中国語による口述を行う場合があります。）を行います。
		「英語教員 リカレント・ コース」 14:30～	志望理由書、研究計画書及び中学校・高等学校の英語教育の課題と改善点等について、口述試験（必要に応じ、英語による口述を行う場合があります。）を行います。
		【一般】 14:30～	入学試験論文等に関し、口述試験を行います。

*1 専門科目、言語のいずれかの点数が満点の6割に満たない場合は、他の試験科目の結果にかかわらず、入学試験不合格とします。

*2 口述試験の結果が不合格の場合は、学力検査の結果にかかわらず、入学試験不合格とします。

*3 中国語教員リカレント・コースは、夏期試験のみ募集します。

※ 入学願書の「試験科目 言語」欄に受験する言語を記入すること。

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語のうちから、「第一言語」*を除く、志願者選択の1言語の問題を課す。ただし、外国人の志願者は、前記言語に代えて日本語を選択受験することができる。

*「第一言語」とは、いわゆる「母語」のことで、志願者が最も自己を表現しやすい言語をいう。

(注) 【一般】志願者で、試験科目「言語」に「英語」を選択する者、及び「英語リカレント・コース」志願者には、試験科目「言語」の一部として言語運用能力を確かめるための英文による小論文の試験を課し、提出された英語外部検定試験の成績を得点換算した得点を加えた合計点（配点100点）により評価します。

※ 英語外部検定試験成績の提出方法については、「Ⅶ 英語外部検定試験の利用について」を確認してください。

(2) 試験場

大阪大学箕面キャンパス

大阪府箕面市船場東3丁目5番10号

(<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/minoh/minoh.html>)

Ⅶ 英語外部検定試験の利用について

【一般】志願者で試験科目「言語」で「英語」を選択する者、及び「英語教員リカレント・コース」志願者は、IELTS(Academic Module)、TOEFL-iBT Test、又は TOEFL-ITP Testsの成績票（いずれか1つのみ）の提出が必要です。成績票の提出にあたっては、以下の点について留意願います。

【全般的事項】

- ①IELTS(Academic Module)、②TOEFL-iBT Test、又は ③TOEFL-ITP Testsの成績票（いずれか1つのみ）を提出してください。
- 2022年4月1日以降に受験したもので、出願時において有効期限内である成績票のみ有効です。
- 提出された成績票は返却しません。

【① IELTS(Academic Module)】

- IELTS事務局から大学に直接送付される電子送信での成績証明書(Test Report Form)のみ受け付けます。
- インターネットで IELTS事務局に申請される際には、送付先を「大阪大学大学院人文科学研究科外国学専攻／日本学専攻応用日本学コース（箕面事務部学生支援係）」、送付先住所を「〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10」とし、備考欄に「電子送信」の旨を記入してください。
- IELTS事務局から大学へ直接送付される成績証明書（Test Report Form）が出願期間内に届かない見込みの場合は、IELTSから受験者宛てに発行された成績票（Test Report Form）の写しを提出してください。ただし、その場合でも、IELTS事務局から大学に直接送付される成績証明書（Test Report Form）の送付申請は必ず行ってください。夏期試験にあつては令和6（2024）年7月26日（金）までに、冬期試験にあつては令和7（2025）年1月17日（金）までにIELTS事務局から大学に成績証明書（Test Report Form）が直接届かない場合は得点換算しません。
- IELTS（General Training Module）は認めません。

【② TOEFL-iBT Test】

- ETS (Educational Testing Service 以下同じ。) から 大学に直接送付される公式スコアレポート (Institutional Score Report 又は Official Score Report) のみ受け付けます。
- インターネットで ETS に大学への直接送付の申請をしてください。申請の際に必要なとなる登録コードは「C685」です。また、Department Codeが必要な場合は「98 other humanities」を選択してください。(ETS からスコアレポート発送後、大学に到着するまでに4～6週間以上要する場合がありますので、余裕をもって申請してください。)
- ETS から大学に直接送付される公式スコアレポート (Institutional Score Report 又は Official Score Report) が出願期間内に届かない見込みの場合は、ETS から受験者宛てに発行された Test Taker Score Report 又は Examinee Score Report の写しを提出してください。ただし、その場合でも、ETS から大学に直接送付される公式スコアレポート (Institutional Score Report 又は Official Score Report) の送付申請は必ず行ってください。夏期試験にあっては令和6(2024)年7月26日(金)までに、冬期試験にあっては令和7(2025)年1月17日(金)までに ETS から大学に公式スコアレポート (Institutional Score Report 又は Official Score Report) が直接届かない場合は得点換算しません。
- Test Date Scores のみを利用します。(MyBest Scores は利用しません。)

【③ TOEFL-ITP Tests】

- TOEFL-ITP Tests のスコアレポート (受験者用控え) の写しを提出してください。
- 本学以外で受験した TOEFL-ITP Tests のスコアレポート (受験者用控え) の写しを提出する場合は、テストを実施した機関 (所属 (出身) 大学等) から原本証明が必要です。 (原本証明の無いものは無効とします。)
- 出願期間内にスコアレポート (受験者用控え) の写しの提出が無い場合は得点換算しません。

Ⅷ 合格者の発表

合格者の発表は、下記の日時に大阪大学箕面キャンパス外国学研究講義棟2階掲示板に、受験番号の掲示により行うとともに、合格者には合格通知書を送付します。

なお、合否に関する電話による問い合わせには一切応じません。

また、人文学研究科外国学専攻のウェブサイトでも合格者の受験番号を公開する予定です。

夏期試験	冬期試験
令和6(2024)年8月19日(月) 13:00	令和7(2025)年2月10日(月) 13:00

Ⅸ 入学手続

合格者は、令和7(2025)年2月下旬に送付する(冬期試験合格者には、合格通知に同封する)入学手続案内に従い、入学手続を完了してください。

なお、指定された入学手続期間中に入学手続を完了しない者については、入学を辞退したものと取り扱います。

※入学手続期間は、令和7(2025)年3月3日(月)～3月5日(水)の予定です。

Ⅹ 入学料及び授業料(下記の金額は予定であり、今後変更することがあります。)

1 入学料 282,000円

2 授業料 535,800円(前期分 267,900円・後期分 267,900円)

(注1) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注2) 入学料及び授業料の支払方法等については、入学手続案内にて通知します。

XI 個人情報の取扱い

- 1 出願時に提出していただいた氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。
なお、合格者については合格発表日以降、入学後に履修可能な教育プログラムについて案内するために利用することがあります。
また、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。
- 2 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。
- 3 1及び2で得られた個人情報は、上記のほか、「入学者選抜方法及び大学教育の改善」、「大学の管理運営（各種調査・分析、事業企画等）」のために利用することがあります。ただし、個人が特定される形で、その成果が公表されることはありません。
- 4 上記の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。
この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出していただいた個人情報の全部または一部を提供します。

XII 入学試験における個人成績の開示について

本入学試験における個人成績等について、開示を希望する受験者本人からの申請に基づき、次のとおり開示します。

(1) 開示内容

- ①受験者本人の学力検査（専門科目・言語）の得点、合計得点
- ②受験者本人の口述試験の可否（「合格」または「不合格」）
- ③受験したコース・区分（【一般】【社会人】【外国人留学生】、及び「中国語教員リカレント・コース」英語教員リカレント・コース）の中での、合格者の学力検査合計得点の最低点

ただし、当該区分の合格者が5名未満の場合は③は開示しません。

(2) 申請受付期間 各試験の合格者発表日から2週間

(3) 申請方法

希望者は申請受付期間内に、下記(4)の提出書類を担当係へ「特定記録郵便」にて郵送してください。申請受付期間内の消印がある特定記録郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

担当係 〒562-8678 大阪府箕面市船場東3丁目5番10号

大阪大学人文学研究科箕面事務部学生支援係

(4) 提出書類

①入学試験情報開示申請書

大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻ウェブサイト（https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/admission/als_info.html）からダウンロードできます。

②受験票の写し

③返信用封筒定形（長形3号）の封筒に返信先住所・氏名を明記し、特定記録郵便に必要な郵便切手244円分を貼付してください。

(5) 通知方法

申請受付期間終了後、特定記録郵便で申請者宛に開示内容を通知します。

(6) 注意事項

- ①期間終了後の申請は受理しません。
- ②担当係窓口での開示内容の通知の受け取りはできません。

XII その他

- 1 入学願書等の所定様式は、人文学研究科外国学専攻ウェブサイト（入試情報）からダウンロードのうえ利用してください。提出書類は全て A4判用紙（白紙）で印刷してください。
(https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/admission/a_ls_info.html)

ウェブサイトからダウンロード及び印刷できる環境にない方は、郵送で請求してください。郵送で請求を行うときは、封筒の表に「博士前期課程外国学専攻募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号（240mm×332mm）に210円分の切手を貼付し、本人の宛名を明記したものを）を同封の上請求してください。請求・照会先等は、巻末の《問い合わせ先》とします。

- 2 出願書類の記入事項及び書類等に不備がある場合は、受理しません。
- 3 出願書類受理後は、書類の差し替えや記入事項の変更は認めません。また、出願書類及び納付された検定料は次の場合を除き返付しません。
ア) 出願したが受験資格がなかった場合
イ) 出願書類受理期限後に書類が到着した場合
ウ) 出願書類に不備があり受理できなかった場合
エ) 検定料を振り込んだが出願しなかった場合
オ) 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
※エ)とオ)の場合は、返還請求を希望する旨、巻末の《問い合わせ先》へ連絡してください。
- 4 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- 5 受験票は、夏期試験にあつては令和6（2024）年6月28日（金）、冬期試験にあつては令和7（2025）年1月10日（金）に出願者へ郵便で発送する予定です。なお、夏期試験にあつては令和6（2024）年7月3日（水）、冬期試験にあつては令和7（2025）年1月15日（水）を過ぎても受験票が到着しない場合は、巻末の《問い合わせ先》に問い合わせてください。
- 6 障がい等のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、夏期試験志願者にあつては令和6（2024）年5月31日（金）までに、冬期試験志願者にあつては令和6（2024）年10月11日（金）までに、巻末の《問い合わせ先》に問い合わせてください。
- 7 出願後に住所変更等があった場合は、速やかに巻末の《問い合わせ先》に連絡してください。
- 8 出願にあたっては、自身が志望する研究内容等を踏まえ、後掲の参考資料「教員研究分野一覧」により担当教員、研究分野及び研究題目等を十分に確認しておいてください。
- 9 過去の入試問題は、箕面事務部学生支援係で閲覧することができます。（コピーは不可）当該年度に受験者がなかった専攻の試験問題は閲覧できません。詳しくはウェブサイト上の「過去の入試問題について」を確認してください。
(https://www1.lang.osaka-u.ac.jp/ls/admission/a_ls_info.html)

XIII 受験上の注意

- 1 試験場（大阪大学箕面キャンパス）については、大阪大学ウェブサイトアクセスマップ（<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>）や巻末の案内図等を参照してください。
- 2 試験室等については、試験当日、大阪大学箕面キャンパス外国学研究講義棟1階エントランスホールに掲示する予定です。
- 3 試験当日は、受験票及び筆記用具（黒鉛筆又は黒い芯のシャープペンシル、消しゴム）を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験場本部に申し出てください。
- 4 時計については、計時機能だけのものに限り使用を認めます。
- 5 受験者は、試験開始時刻の20分前までに試験室に入室し、受験番号ごとに指定された受験席に着席してください。
- 6 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めます。

- 7 試験開始後は、原則として当該試験終了まで退室を認めません。なお、試験中の発病等やむを得ない事情により一時退室を希望する場合は、挙手して試験監督者に申し出てください。
- 8 試験に関して不正な行為があると認められた時は、その者の試験を無効とし、以後の受験を禁止します。
- 9 口述試験の開始 10 分前までには口述試験控室に待機しておいてください。
- 10 口述試験の最終終了予定時刻は 18 時ですが、事情によってはそれより若干遅くなることがあります。
- 11 試験当日は、学内食堂等は営業しておりませんので、昼食は各自で用意してください。

●外国学専攻教員研究分野一覧(予定)－博士前期課程

専攻言語	職名	担当教員	研究分野	研究題目
中国語	教授	古川 裕	中国語学・中国語教育	認知言語学による現代中国語構文論、語構成論；日本語母語話者に対する中国語教育の諸問題
		深尾 葉子	社会生態学・中国社会論・越境マネジメント	中国社会の内在論理に則したコミュニケーション分析・中国における環境と人々の生活の相互作用に関する研究・東アジア里山経済の越境マネジメント
		林 初梅	言語社会学、台湾研究	近現代台湾におけるアイデンティティ形成・言語・社会文化に関する研究
		今泉 秀人	中国現代文学	中国現代文学、特に沈從文作品の表現と内容に関する研究、また作家の事跡に関する研究。また映画と小説との関係について。また中国語圏文学の研究、特に台湾の鍾理和や馬華文学の作品や作家の事跡について。
	准教授	鈴木 慎吾	中国語学	①漢語音韻史(漢字音の歴史の変遷) ②切韻系韻書の増補改訂史 ③漢語諸方言音の歴史の変遷
		中田 聡美	中国語学、中国語教育	①現代中国語のモダリティ研究 ②日本語母語話者に対する中国語教育研究
劉 文兵		映画論、表象文化論	中国映画史、日中映画交流史、欧米映画における中国人の表象	
朝鮮語	教授	岸田 文隆	朝鮮語学(朝鮮語史研究)	江戸期対馬の朝鮮語学書についての文献学的研究
		酒井 裕美	朝鮮近代史	19世紀後半、統理交渉通商事務衙門を中心として行われた朝鮮の外交政策について
	講師	岩井 亮雄	朝鮮語学	朝鮮語分節音研究、朝鮮語単語史研究、言語の数理科学的研究
モンゴル語	教授	塩谷 茂樹	モンゴル語学、モンゴル口承文芸	①モンゴル語形態論、語彙論研究 ②モンゴル語ことわざ、民話、慣用句研究 ③モンゴル系民和土族語の記述言語学的研究
	准教授	今岡 良子	遊牧地域論	①生物多様性と草原 ②遊牧地域社会を外から変容させる自然的・社会的要因と牧民運動 ③モンゴル現代女性史
		中嶋 善輝	モンゴル語学	①モンゴル語とチュルク語の言語接触に関する研究 ②カザフ語に関する記述的研究
インドネシア語	教授	原 真由子	社会言語学、インドネシア語学、バリ語学	①バリ語とインドネシア語のコード混在 ②バリ語山地方言の社会言語学的研究
		菅原 由美	インドネシア史、東南アジア・イスラーム史	東南アジア島嶼部におけるイスラームの展開
	講師	松村 智雄	インドネシア地域研究、華人研究	ボルネオ島社会の研究、マラッカ海峡兩岸の社会史研究、インドネシア国民形成期の華人社会の動態についての研究、インドネシアにおける中国・華人研究の発展についての研究
フィリピン語	教授	宮原 暁	東南アジア華僑華人研究 東南アジア・マイノリティ論	①東・東南アジア近代における多声的アイデンティティ・モデルの可能性 ②東南アジア華僑華人社会の知識人類学的研究
		宮脇 聡史	フィリピン地域研究	フィリピン市民社会(特にカトリック教会)の国民意識・歴史認識と政治・社会参加
	准教授	矢元 貴美	移民政策、異文化間教育	①フィリピンにルーツを持つ子どもの教育における諸問題 ②フィリピン語の母語・継承語教育 ③フィリピン語教材と教授法の開発
	講師	白石 奈津子	農村社会学、文化人類学	①東南アジア島嶼部における農業生産コミュニティと制度 ②共同性言説の構築過程における周縁存在の位置づけに関する研究
タイ語	教授	村上 忠良	タイ地域研究、文化人類学	①タイ系民族ジャンの声と文字の宗教実践 ②現代タイ社会における「死の文化」の変容 ③タイ国内の宗教的少数派
	准教授	日向 伸介	タイ近現代史、地域研究	近現代のタイにおける政治と文化
	助教	RATTANASERIWONG SANGTIEAN	言語学、タイ語教育	日タイ両語対照研究、第二言語または外国語としてのタイ語教育

注1) 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。

注2) この一覧表は、人文学研究科外国学専攻の専任教員に限定して作成しておりますが、今後変更となる場合があります。

●外国学専攻教員研究分野一覧(予定)－博士前期課程

専攻言語	職名	担当教員	研究分野	研究題目
ベトナム語	教授	清水 政明	ベトナム語学	①字喃資料によるベトナム語史研究 ②ベトナム語教育・習得研究
	准教授	ファン ティ ミイ ロアン	ベトナム語学	①ベトナム人を対象とした漢字・漢語学習指導法 ②ベトナム語教育
	講師	近藤 美佳	ベトナム語学、ベトナム語教育	①在日ベトナム人子弟への母語・母文化継承 ②ベトナム語教育
ビルマ語	教授	井上 さゆり	ビルマ音楽、ビルマ文学	①ビルマ古典歌謡における口承と書承 ②ビルマ音楽史
	准教授	池田 一人	ビルマ地域研究、ビルマ史	①19世紀ビルマの民族形成史 ②ビルマの民族問題をめぐる史観研究
		大塚 行誠	言語学	ビルマ語およびクキ・チン系諸言語の記述言語学的研究
ヒンディー	教授	長崎 広子	ヒンディー文学 インドのヒンドゥー文化	①ヒンディー文学 ②ヒンドゥー教バクティ思想と文化の研究
	准教授	西岡 美樹	言語学・ヒンディー語学	①ヒンディー語と日本語の言語学的対照研究 ②ヒンディー語ウェブコーパスと検索システムの開発
ウルドゥー語	教授	山根 聡	ウルドゥー文学 南アジアのイスラーム文化	①ウルドゥー語の国語化に関する研究 ②南アジアにおけるイスラーム運動の諸相
		北田 信	ウルドゥー語学	①ウルドゥー語学・文学 ②新期インド・アリア語の文学 ③南アジアの伝統芸能
	講師	宮本 隆史	南アジア史、ウルドゥー語歴史資料論、人文情報学	①近現代南アジアの制度史・社会史 ②ウルドゥー語の歴史資料の研究 ③デジタルアーカイブの構築と活用に関する研究
アラビア語	教授	近藤 久美子	アラビア語学、アラブ文学	アラビア語文法、アラブ古典文学、アラブ地域の民俗伝承研究
	准教授	依田 純和	アラビア語方言論	現代アラビア語方言の文法記述、近代ユダヤアラビア語、マルタ語学
		福田 義昭	アラビア語、アラブ文学	①近現代アラブ小説の歴史的展開 ②昭和戦前・戦中期の在日(とくに在神戸)ムスリム・コミュニティに関する研究
		仲尾 周一郎	言語学、南スーダン地域研究	①アラビア語諸変種に関する現代言語学的研究 ②多言語使用・言語接触と言語変化 ③北東アフリカ都市文化研究
ペルシア語	教授	竹原 新	イラン民俗学	イランの民話と俗信に関する研究
	准教授	ジェイ ベヘナム	ペルシア語学、言語学	現代ペルシア語の言語学観点からの研究
	講師	中村 菜穂	イラン現代文学	①ペルシア詩の比喩および詩的言語の変容に関する研究 ②20世紀イラン文学の展開 ③詩人の生涯と作品に関する研究
トルコ語	教授	大澤 孝	トルコ文化史研究	古代テュルク系遊牧民の碑文言語と歴史文化の調査研究
	准教授	宮下 遼	トルコ文学(史)、トルコ社会史	①オスマン朝ディーワーン文学についての文学(史)研究 ②イスタンブール都市社会史 ③現代トルコ作家の社会性を巡る言説研究
スワヒリ語	教授	竹村 景子	スワヒリ語学、スワヒリ文学、スワヒリ文化論	①スワヒリ語諸変種の記述研究 ②スワヒリ地域における女性のライフヒストリーとジェンダー問題研究 ③現代スワヒリ語文学研究
		小森 淳子	アフリカ言語学	ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究 ①パントゥ諸語における動詞派生形研究 ②ヨルバ語、バンバラ語の統語論記述研究

注1) 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。

注2) この一覧表は、人文学研究科外国学専攻の専任教員に限定して作成しておりますが、今後変更となる場合があります。

●外国学専攻教員研究分野一覧(予定)－博士前期課程

専攻言語	職名	担当教員	研究分野	研究題目
ロシア語	教授	上原 順一	ロシア語学	現代ロシア語の語彙論・語形成論
		藤原 克美	ロシア経済論	①ロシアの企業及び産業の研究 ②ソビエト消費財産業の研究
		高橋 健一郎	ロシア音楽・ロシア語学	①20世紀初頭のロシア文化におけるメトネル兄弟の音楽思想 ②日露対照言語学
	准教授	横井 幸子	ロシア語教育・言語教育	①高校におけるロシア語教育支援のための基盤研究 ②日本における外国語教育政策研究
ハンガリー語	教授	岡本 真理	ハンガリー言語社会論	近代ハンガリーの民族言語・文学運動
		鈴木 広和	ハンガリー史	①中世ハンガリー史 ②ハンガリーにおける歴史叙述の歴史
	准教授	江口 清子	ハンガリー語学、言語学	①ハンガリー語の移動表現の研究、 ②認知言語学的言語類型論に基づく第二言語習得研究
ドイツ語	教授	進藤 修一	ドイツ・オーストリア近現代史	①近代ドイツ教育社会史 ②ドイツ語圏における教育と民族 ③現代ドイツの移民問題と教育
		中川 裕之	ドイツ語学／言語学	①ドイツ語研究(語順、語用論、談話分析、コーパス、日独語対照、副詞) ②スイスの言語文化研究
	准教授	北岡 志織	ドイツ演劇・文学	現代ドイツ演劇・文学における他者表象
		濱田 洋輔	哲学	①近現代ドイツ哲学 ②生物学(特に進化論)的視点に基づいた哲学・倫理学
	助教	酒詰 悠太	ドイツ哲学	①現象学 ②存在論
デンマーク語	教授	田邊 欧	デンマーク文学・北欧文学	①デンマーク近・現代文学 ②北欧モダニズム研究
		石黒 暢	社会福祉学、社会政策論	①北欧と日本の高齢者介護政策の国際比較研究 ②子育て支援政策の国際比較研究 ③福祉国家論とガバナンス研究
	講師	大辺 理恵	デンマーク語学、言語学	デンマーク語の法助動詞における意味の歴史の変遷、デンマーク語の心態詞の用法
スウェーデン語	教授	高橋 美恵子	社会学、家族政策	①スウェーデンと日本の家族・ジェンダー ②ワーク・ファミリー・バランスの国際比較研究
		古谷 大輔	近世スウェーデン史(西洋史)	スウェーデンを対象とした近世ヨーロッパにおける複合的国家編成の研究
英語	教授	大津 智彦	英語統語法の歴史の変遷	①コーパスを使った英語統語法の史的变化の記述と説明 ②現代英語に起こりつつある統語的变化の研究
	教授	畑田 美緒	イギリス文学	19世紀のイギリス小説
	教授	中村 未樹	イギリス演劇・イギリス文化	①エリザベス朝の舞台慣習と演技 ②イギリス演劇の通時的研究 ③イギリス文化研究(初期近代から現代まで)
	准教授	岡本 太助	アメリカ演劇・文学・文化	①アメリカ演劇研究(家族表象、パフォーマンス理論) ②アメリカ文学研究(消費文化とメディア) ③アメリカ文化表象論(映画、テレビ、音楽、ビデオゲーム)
	講師	藤山 一樹	イギリス外交史	戦間期イギリスの対ヨーロッパ／対アメリカ政策とその国際秩序への影響
伊藤 孝治		アメリカ史・日米関係史・環境史・科学技術史	20世紀前半のアラスカおよび北太平洋における鮭鱈漁業と水産海洋学の発展に関する研究	

注1) 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。

注2) この一覧表は、人文学研究科外国学専攻の専任教員に限定して作成しておりますが、今後変更となる場合があります。

●外国学専攻教員研究分野一覧(予定)－博士前期課程

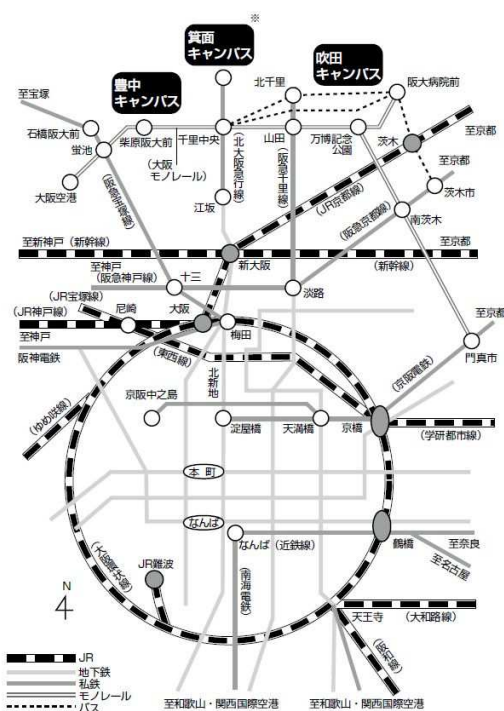
専攻言語	職名	担当教員	研究分野	研究題目
フランス語	准教授	岡田 友和	フランス近現代史	19-20世紀フランスの植民地と帝国をめぐる歴史研究
	講師	篠原 学	フランス近現代文学	① 19-20世紀フランスの小説芸術およびその制作についての理論的言説 ② 作家の異郷体験と文学的創造の関係 ③ 小説の語り手による省察の研究
		栗原 唯	フランス語学・日仏対照言語学	①現代フランス語における主観性表現の研究 ②公共空間におけるコミュニケーションの研究
イタリア語	教授	菊池 正和	イタリア文学	①イタリア近現代演劇 ②近現代シチリア文学
	准教授	ベルテッリ ジュリオ	イタリア史・日本史・国際関係史(近現代史)	①幕末・明治期における日伊外交・貿易関係に関する研究 ②19-20世紀のイタリア人が遺した日本関係史料(日記・書簡など)を中心とした研究
スペイン語	教授	長谷川 信弥	スペイン語学、カタロニア語学、ロマンス語学	イベリア半島のロマンス語(特にカタロニア語、スペイン語)に関する記述的研究
		中本 香	近代スペイン史	近代スペインにおける国家編成の理論と実践
		松本 健二	現代スペイン語圏文学	現代スペイン語小説における記憶の回復:スペインとチリとペルーの紛争後文学の研究
	准教授	岡本 淳子	スペイン文学	①フランコ独裁制時代の検閲と演劇 ②ポスト・フランコの演劇
		川口 正通	スペイン語学、スペイン語教育	①スペイン語語用論研究、②スペイン語教育・教授法における諸問題に関する研究
ポルトガル語	教授	平田 恵津子	ブラジル文学	①ブラジルモダニズム文学 ②日系ブラジル人の芸術表現
	准教授	坂東 照啓	ポルトガル語学・言語学	ブラジルの言葉と文化
		鳥居 玲奈	ポルトガル語学	現代ブラジルポルトガル語文法研究(形態統語論・語彙論)
	助教	鳥越 慎太郎	ポルトガル語学・習得研究	①ポルトガル語の叙法とモダリティ ②第二言語ポルトガル語習得

注1) 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。

注2) この一覧表は、人文学研究科外国学専攻の専任教員に限定して作成しておりますが、今後変更となる場合があります。

案内図・問い合わせ先

《案内図》



鉄道：

○北大阪急行線

箕面船場阪大前駅下車 徒歩約3分

バス：

○阪急バス

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| G 箕面小野原線 (小野原東～呉羽の里) | 船場団地 下車 徒歩約1分 |
| H 箕面中央線 (阪急石橋北口～千里中央) | 箕面船場阪大前駅 下車 徒歩約3分 |
| I 小野原東線 (小野原東～千里中央) ※朝・夕のみ | 船場団地 下車 徒歩約1分 |
| K 豊中市内線 (阪急豊中駅～千里中央) | 新船場南橋 下車 徒歩約7分 |

《問い合わせ先》

大阪大学人文学研究科箕面事務部学生支援係
 〒562-8678 大阪府箕面市船場東3丁目5番10号
 E-mail jinbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp